

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型にふさわしい事業所独自の理念がある。管理者と職員は常に理念を確認し合い業務に反映させている。</p>	<p>自分自身が入居するのであれば、どのようなホームで、どのようなケアを受けたいかという視点で考え、分かりやすく短い言葉にまとめた理念が作り上げられています。事業所内の目に付く所に掲示をする他、忘年会時に全員で理念を復唱するなどして職員に理念を浸透させています。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>畑にいる時や散歩中、近所の方と挨拶を交わしたり自治会にも参加し回覧板をまわしている。その際できるだけ入居者にも参加して頂いている。又、米、みそ、牛乳など地域の方から購入し、毎日の買い物では地元のスーパーを利用し日常的に交流している。</p>	<p>地元の保田小学校の生徒が遊びに来てくれたり、中学生の職場体験なども受け入れています。また、フルーツや踊りなどのボランティアも来ていただくなど地域との交流に努めています。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>あまり貢献の場面を作る事は出来ていないが、今回安田包括が主催で安田住民対象の「介護者の集い」が開催される。その際、管理者がグループホームについてお話をする予定。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議に参加された方々へヒヤリハットや事故の報告、又、現在のユニット内の状況をしっかりと報告している。参加される方からも意見をお聞きし、サービスに反映させている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的開催しており、事業所からの報告に加え、参加者から寄せられた意見や要望は参加者の協力を得ながら、計画を立てサービスの向上に活かされています。また、全利用者家族への参加の呼びかけも行われています。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>管理者は常に市役所の担当の方と連絡調整を行っている。事故発生時すぐに市役所の担当者に報告している。</p>	<p>市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。地域の福祉サービスの質の向上のために相互に協力し合う関係が作られています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通して身体拘束に関して職員一人ひとりが理解し業務にあたっている。日中玄関の鍵は施錠せず自由に入出りが可能であるなど、全職員が身体拘束をしないケアを実施している。	虐待防止と併せて毎年継続的に身体拘束に関する研修を実施することで、全職員が身体拘束による弊害を理解し、拘束しないケアが徹底されています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者による虐待に関する内部研修が行われている。入居者に対する言葉遣いや対応の仕方など細かい部分まで話し合いを行っている。	身体拘束と併せて毎年継続的に虐待に関する研修を実施しています。また、日常の中で、声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、即指導するような関係作りがされています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々での学習に加え、管理者より資料を掲示され学ぶ機会が設けてあった。そして必要に応じて職員間での話し合いを行ってきた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族へ時間をかけ十分な説明を行っている。又、改定等の際は疑問点や不安を伺った上十分な説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員との話し合いからより良い解決に向けて取り組んでいる。又、家族からの意見要望は書面にし運営推進会議で伝えている。家族からの意見を頂いた時には、全職員で検討し運営に反映させている。	相談箱、面会、カンファレンス、運営推進会議の他、夏祭りの際「家族の集い」として家族会を行っており多くの意見をいただけるようにしています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議などで職員の意見を表す場を設け、意見を聞き対応を検討している。又、日々の業務内でも意見や提案があればその都度検討に努めている。意見や提案も代表者と直接話せる状態である。	毎月のユニット会議には管理者も参加する他、折に触れ理事長が現場に入り直接職員と話す機会が設けられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は常に職員の勤務状況を把握している。各自が向上心を持てるよう些細な事でも声掛けに心がけ、又、職員の意見を汲み取る様努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は職員に対し必要と思われる外部研修に参加するよう指示している。その内容を復命書に記し全職員に伝えている。又、年間の研修計画を立て、看護師、管理者、研修係による内部研修が行われている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホームで管理者会議や交流会、交換研修を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にはもちろん、サービス開始後もご本人と沢山関わりを持ち、不安・要望を引き出し信頼関係を築くことで安心した生活ができるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の段階でご本人の状態・家族の状況や思いをお聞きし、安心して入居の申し込みをして頂けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の状況をお聞きし、グループホームでの生活がその方にとって一番良い選択かを見極めるようにしている。又、担当ケアマネとも相談し、最も良い選択ができるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、学ばせて頂く姿勢を忘れないよう努めている。又、常に支え合える関係であることを表現し、家族の一員と思って頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは用件だけでなく、ゆっくり話をできる時間を設け、一緒に過ごして頂いている。時には、職員も加わり、談話に参加させて頂きより良い関係作りを支援している。カンファレンスへの参加も呼びかけ、共に支えあっている。	年に5回広報を作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、状況を共有できるようにしています。また面会時などは話を伺い、カンファレンスにも参加していただけるようにし、関係を構築しています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から話を聞き、馴染みの店や場所などお連れできる範囲内であれば一緒に行ったりしている。面会も親戚、友人などなたにでも来て頂けるよう声を掛けている。	ご利用者・ご家族からの情報のなかで、馴染みの場所に行ったり、来所しやすい雰囲気作りを行い、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方が出来るよう関係作りのお手伝いをしていく。又、関係作りができない状態の方には職員が間に入り孤立しないようお手伝いしている。両ユニット間やデイサービス間の行き来もして、より良い関係が築けるよう配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のところへ職員が訪問したり、管理者が手紙を送り連絡を取っている。又、必要に応じて家人や本人からの相談には出来る限り応じるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を大切に、その中から思いや意向が何であるか汲み取る様努めている。困難な場合には、コミュニケーションを十分に図りながら思いを感じ取れるよう努めている。	センター方式のアセスメントを活用し、詳細に思いや意向が記載されています。また、面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入しています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決定した時点で、全職員は情報をしっかり見ている。又、より多くの情報を得られるよう都度家族との会話を心掛けて	前回の評価課題を受け【私の暮らし情報シート】を作成し、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報の整理を行いました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤するとまず全職員は一人ひとりの生活記録を読んでから業務にあたっている。心身の変化はこまめに記録に残し、又、職員間で口頭でも伝え合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行う際、家人にも参加して頂けるようお願いし希望や要望を参考にプランを作成している。ケアプランは3ヶ月に1度見直しではあるが、本人の体調に変化が生じた場合においてはその都度関係者意見も参考にプランを立て直しを行っている。	カンファレンスへの出席が困難なご家族へも、介護計画の立案に加わっていただくよう、来訪時に介護計画に関する意見や要望を伺うよう工夫されています。また、3ヶ月に1回カンファレンスを開催し、見直しを行うのみならず、毎日の経過記録の記入による評価と毎月のモニタリングにより、状態やニーズと計画にギャップが生じる場合は即座に見直しが行われています。また、計画の作成についても最優先課題を明確にして、ご利用者が一歩ずつクリアできるよう工夫されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践状況や本人の話した内容、その時の様子など細かく記録に残している。又、その時職員が感じた事や思った事なども記録として残し、次回のプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診は家族にお願いしているが、緊急時においてはこちらでお連れする事もある。又、理美容に関しても家族にお願いしているが、できない時には施設に理・美容師に来て頂いている。又、リネン類に関しても交換日に間に合わない時は代行して行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々なボランティアの方に来て頂いたり、実習生の受入を行っている。又、近所の方々とは日々の挨拶を交わし地域との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家人に昔からのかかりつけ医院へ受診して頂くようお願いし受診して頂いている。その際に日々の状態を伝える手紙を書き受診時にも職員への助言、指導も頂き、状態に応じて必要な医療を受けられるよう病院の受診を勧めている。	ご本人、ご家族の希望する医療機関にて受診してもらい、どの医療機関に受診する際も事業所からの手紙を書き、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。また、ご家族の付き添いができない場合は職員が直接状態の説明を行うなどの対応がされています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師から、日々の健康状態から緊急時の対応をその都度的確に指示を受けている。その際に入居者の状態で何か些細な変化があれば、その都度報告して見て頂いている事もある。又、研修などとして頂き職員の意識を高めるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者が病院へ足を運び情報交換を行い、入居者の早期退院に努めている。又、退院後の過ごし方を医師と相談し、本人や家族にも安心して過ごして頂けるよう配慮している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合は、家族と相談した上で対応方法を考えている。グループホームで出来る事を伝えることで納得して頂いている。終末期については今の段階で対応は考えていない。しかし、職員のレベルを上げ尚且つ医療機関との連携も含め検討していきたい。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し、同意を得ており、医療的な支援が必要な場合は特養や病院に移っていただいています。	事業所としてターミナルケアの方針を作成し、職員間でも対応方法の共有をされることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	迅速な対応に繋がるような定期的な訓練は行っていないが、年に1回講習の機会を設けている。又、職員同士利用者の情報を共有し合うようにしている。	消防署による救命救急講習を全職員が受講しています。また、看護師による内部研修も行われています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼と夜の想定で利用者を含め災害の訓練を行っている。しかし、現在地域の方からは参加して頂いていない為、今後協力して頂けるよう努めていく。	6ヶ月に1回の避難訓練の他、年に一度看護師が講師となり、救急救命・AEDの講習も行っています。	地域の方にも避難訓練に参加していただけるように参加要請されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の話に耳を傾け、会話が噛み合わない時でも否定せずにお聞きし、お一人おひとりの言葉を尊重した対応をしている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、現場でご利用者に対する幼稚な言葉に気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話は表情、仕草等からそれぞれの思いや希望を汲み取り、出来る限り要望や意向に応えられるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなくお一人おひとりのペースに合わせ、思い思いに過ごして頂けるよう気持ちを尊重し、安らぎ持てるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服はお好きなように着て頂いているが、職員も一緒に選んでさし上げおしゃれを楽しんで頂いている。又、毎日の整容の他、馴染みの床屋等も家族にお願いして利用して頂いている。又、家族の依頼で美容師が訪問する時もある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べにくい物は刻んでお出ししたり、お一人おひとりの好みも踏まえ週1回入居者の希望するメニューを取り入れるなどの工夫を行っている。又、それぞれの得意な家事に参加して頂きながら毎日の暮しに張り合いが持てるよう支援している。	週に1度、希望献立の日を儲け、聞く機会を作ることで、ご利用者の希望に添えるよう配慮されています。また、準備、食事、後片付けも職員と状態に合わせてご利用者が共同で行われています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目以上の食品を取り入れ、必ず肉、魚、卵、海藻類、大豆類、乳製品が入るよう献立を立てている。又、市販の物をなるべく使用しないようにし、塩分を控えた食事作りをしている。又、食事以外にもこまめに水分補給を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりに声を掛けその方に合わせて付き添いや見守り、一部介助に行っている。又、義歯の方には、毎食後外して頂いており、夕食後には職員が預り消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁軽減の為に定期的なトイレ誘導を行っている。夜間ハビリパンツを使用し、日中は布パンツをはいて頂き、出来る限り布パンツを使用して頂くようにしている。	排泄パターンの把握するまでは排泄チェックを行い、おむつの使用を減らせるような取組みや、夜間の失敗の際、隠さなくてもいいよう部屋に入れ物を置く工夫などがされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際はもちろん、その他でもお茶やジュース等をお勧めしたり、糸寒天を料理に入れたり、おやつ時に寒天ゼリーを作ったりしている。又、数日排便がみられない方には、こまめに水分を勧めたり医師から処方された下剤を使用するなど、その方に合った方法をとっている。又、毎日体を動かさず場面も設けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の入居者の体調や気分にも配慮しながらお誘いしている。又、入浴に対して拒否のみられる入居者には明るい話題作りで声掛けし、気持ち良く入って頂けるよう工夫している。強い拒否がみられた時は無理強いせず見守っている。	入浴のスケジュールは作成するものの、気候やイベント、ご利用者の希望や気持ちに応じた柔軟な対応が図られています。また、入浴に関してもきめ細やかな記録を残すことで、声かけの仕方やタイミングが職員間で共有されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで眠そうにされている方には、居室で休まれるよう声掛けをしている。又、夜間も安心して入眠ができるようにその方の状況に応じて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者お一人おひとりの薬の目的、副作用、用法、用量について全て把握しているとは言えない。ない服が変わった際には、副作用等の変化がないかなどの確認ができている。又、新しい薬を服薬して変化があったらその都度意医師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を把握しながらその方が何をしたいのか、何が得意なのかを会話の中から引き出すようにしている。ドライブや調理などご本人のしたいことをして頂く事で張り合いのある暮らしを送って頂けるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買出しの際にお連れしたり、月に1回は外食へお連れしている。又、外出を希望される方には、職員も同行の元で散歩やドライブなど外出する機会を多く設けている。しかし、家族や地域の方々の参加は今のところないので今後検討していきたい。	天気の良い日は毎日のように散歩をすることや、併設のデイスーツの車を利用して、買い物などのドライブをするなど、可能な限り戸外に出られるよう支援されています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお小遣いを事務所の金庫にてお預かりし、入居者の希望に応じてお好きなものを購入して頂いている。又、居室内に家族の了解の上でご自分で管理されている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人への年賀状などはご本人で書いて頂き、書けない部分は職員が代筆している。又、電話は可能な方はご自分でかけて頂くが、出来ない方は職員がおつなぎし職員の見守りの元使って頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真、季節の花などをホーム内に飾る事で季節を感じて頂き楽しく過ごせるような工夫を心掛けている。又、昼寝されている方がいたら、テレビの音量を下げるなど居心地よく生活できるよう配慮している。	廊下の数箇所にソファが配置され、休んだり集ったりすることができるよう配慮されています。また床暖房や加湿器による湿度対策も行われています。また、装飾は華美にならず、職員が知恵を出し合い適度にご利用者の作品や心を打つ良い言葉などが目線を配慮して飾られています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で気の合う方と過ごされたい時にはお茶などをお持ちし楽しい時間を過ごせるようお手伝いをしており、お一人になりたい方は居室やリビング、ソファで過ごして頂けるよう配慮している。又、リビングでは気の合った方同士が楽しく過ごせるように席の配置に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来て頂く事によって自宅にいるような雰囲気作りを心掛けている。	使い慣れたベッドなどの家具や愛着のある品物を持ち込んでもらえるよう推奨し、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全体に手すりがあり、玄関にはスロープもある。お一人おひとりの身体機能の低下を防ぐ為出来る事、分かる事を把握するよう心掛けている。職員全体で情報を交換・共有し力を活かせる場を作り安全にも配慮している。又、ウッドデッキから外に出て洗濯物を取り込んで頂いているが、その際は職員も付き添い安全面で配慮している。		